

附属札幌中学校「学校だより」

藤 房

北海道教育大学
附属札幌中学校

令和4年3月15日発行

卒業特別号

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。義務教育を修了し、この学び舎を巣立つこの佳き日に感慨もひとしおなのではないでしょうか。皆さんが手にする最後の学校だよりとなる本号では、第74期生の門出を祝して、萬谷隆一校長の式辞を紹介いたします。

第74回 卒業証書授与式 式辞

校長 萬谷 隆一

あたたかな日差しが雪を溶かし、春の訪れを感じる今日の佳き日に、北海道教育大学附属札幌中学校を卒業される74期111名の皆さん、卒業おめでとうございます。

また、これまでお子様を手塩にかけて育てられてきたお父様お母様方、誠におめでとうございます。立派に育ったお子様の今日の姿は、まことに晴れやかで輝かしく目に映ることと存じます。また、これまで本校の教育活動にいつもお力添えをいただいたこと、心から感謝申し上げます。

さて、卒業のお祝いとして、これからの皆さんの人生のためにメッセージを贈りたいと思います。

皆さんはこれから新しい学校、新しい世界に出てゆきます。きっと春からの新しい世界に期待に胸を膨らませているのではないかと思います。

これからの人生で、皆さんは何かに挑戦する中で、いろいろな挫折や困難に遭遇するかもしれません。ぜひ、どんな困難にあっても、深刻に考えずに「楽観する心」をもってほしいと思います。

ただし楽観する、心配しないというだけでは、「あきらめ」や「お手上げ」になってしまうこともあります。「正しく楽観する」ための心構えを、三つお話したいと思います。

1) Know yourself. (自分を知ること)

つまり自分がどのような人間なのかを知ることが何より大切です。まず自分は何ができて、何がしたいのか、それを知ることがまずとても大切です。いろいろなことに果敢にチャレンジしてください。そして、それと同時に、等しく大切なのは、自分が何に向いていないかを知ることです。自分が何に向いていないか、受け入れられるようになると、心が楽になります。自分というものが分かっているならば、困難の中でも、自分を冷静に見つめ、次にどうすべきかを知り、正しく楽観することができます。



2) Be prepared (人事を尽くす)

楽観することは、何も努力をしなくてもよいということではありません。自分の挑戦にあたって、できる限り必要な情報を集め、自分を高めておくべきです。しかし、どれだけ準備をしても、すべてがうまく行くわけではありません。自分ができる限りの準備はして、あとの結果がどうなるうとも受け入れる気持ちをもつということが、楽観的に生きることに繋がります。

3) Make friends (支えてくれる人がいること)

苦しい時、大変な時に、誰か、話せる人、話を聞いてくれる人が身近にいただけで、心が救われることがあります。この附属中学校で作ったたくさん友人とのつながりを大切に、さらにはこれからの人生でもたくさん友人を作ってください。失敗や挫折に負けずに楽観的に生きてゆくうえで、友や身近な人の存在は欠かせないものです。

終わりに、卒業する皆さんには、これからの人生、自分をよく知り、努力し、仲間と共に、楽観的な人生を生きていってほしいと思います。心配の少ない、幸せな人生となるよう心から祈っています。

Don't Worry, Be happy.

■卒業記念品が贈呈されました。

第74期生の皆さんから卒業記念品として、行事案内板とイヤホン用壁面フックが贈呈されました。今後大切に使用させていただきます。また、PTAからは印鑑が卒業生に贈られましたので、紙面を借りて紹介させていただきます。卒業生の皆さん、PTAの皆様、ありがとうございました。



【行事案内板】



【イヤホン用壁面フック】



【印鑑】

【保護者の皆様へ】

保護者の皆様におかれましては、これまでの3年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございました。お陰様で、本日の卒業証書授与式では、校長より一人一人に卒業証書をお渡しすることができました。今後の、お子様の更なる成長を楽しみにしております。お子様のご卒業、本当におめでとうございました。